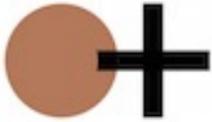


[View this email in your browser](#)

Tomoko
Mukaiyama
Foundation^x

multus
マルタス 

ニューヨーク・フィル デビュー



© Philip Mechanicus

来週ニューヨーク、リンカーンセンターで開催されるルイ・アンドリーセンの80歳を祝うニューヨーク・フィルのコンサート、アンドリーセンのアートにおいて、1996年に書いていただいたピアノ、琴、声とオーケストラのための「TAO」を演奏する。オランダを代表する作曲家、そしてヨーロッパ・ミニマリストとして著名なアンドリーセンは、ロバート・シュン、ピーター・グリーナウェイらコラボレーターと共に常に越境する創作活動を続けており、私自身もオランダに移住せずずっとインスパイアされ続けている。「TAO (道)」ではピアノのほか、琴を伴奏に、詩人であり、彫刻家であるアンドリーセンの『刃物を研ぐ人』をシンプルな旋律で半朗読のように唄う。「何をいったい作るつもりか、そんなことさへ知らずに、一瞬の気を眉間にあつめて、、、」と続くこの歌には、崇高な芸術家の創作への厳しく、激しい姿勢が強く感じられる。

に一生をかけたアンドリーセン自身の姿に重なるような気がしてならない。

。

10月10日(水) 12日(金) 13日(土) [リンカーンセンター](#) ニューヨーク、アメリカ

12月5日



DEC 5

©Simpson Tse

聖人シンタクラスを祝う12月5日は、オランダ人にとってクリスマスや正月より大事な日とされている。元来プレゼント交換したり、韻を踏んだ詩を読みあったりというような家族で過ごす伝統的な催事であったが、近年、聖人を手伝ってズワルトピートの顔黒に塗った仮装から、奴隷制度を思い起こさせる、人種差別だ、という論争が巻き起こり、かつてだった子供のための祭事が年々ポリティカルな様相を帯びてきている。そんな12月5日、「集う」という本来の意にタナティヴな催し物ができないか、と思い立って始めたのがこのシンタクラスコンサートである。夜を一人うちで過ごしていた人、子供たちが巣立っていった夫婦、論議にうんざりしているアンチ・シンタ派、そして楽好き達が集い今年で4年目になる。今年はずっと挑戦したかったシューベルトの「アルペジョーネとピアノのための」をマヤ・フリードマンと演奏。

12月5日(木) [アムステル教会](#) アムステルダム、オランダ

向井山朋子

Tomoko Mukaiyama



Tomoko Mukaiyama Foundation
tomoko.nl info@tomoko.nl

Multus
multus.jp info@multus.jp

Want to change how you receive these emails?
You can [update your preferences](#) or [unsubscribe from this list](#)

